

研究・調査報告書

報告書番号	担当
9 6	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Predictors of intracerebral hemorrhage severity and its outcome in Japanese stroke patients. 日本人脳卒中患者における脳内出血の重症度および転帰の予測因子	
執筆者	
Hosomi N, Naya T, Ohkita H, Mukai M, Nakamura T, Ueno M, Dobashi H, Murao K, Masugata H, Miki T, Kohno M, Kobayashi S, Koziol JA; Japan Standard Stroke Registry Study Group.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cerebrovasc Dis. 2009;27(1):67-74. Epub 2008 Nov 15.	
キーワード	
脳卒中、脳内出血、重症度、転帰、予測因子	
要 旨	
目的： 急性脳内出血の入院時における重症度および退院時の転帰に影響を及ぼす因子を検討する。	
方法： 日本全国の 60 の急性脳卒中病院が本研究 (JSSRS : Japan Standard Stroke Registry Study) に参加し、2001 年 1 月より 2004 年 3 月までの急性脳卒中患者 16,630 例の院内転帰を記録した。JSSRS の脳内出血症例より、成人 2,840 例を研究対象として同定した。	
結果： 入院時重症度は年齢、脳卒中既往、出血範囲と単調増加的に強く関連していることが分かった (カイ 2 乗 (9) 値=374.5、 $p<0.0001$)。飲酒歴も入院時の脳内出血重症度を予測したが、関連は単調増加的ではなかった。興味深いことに軽度飲酒者に比較すると、非飲酒者および大量飲酒者の方が脳内出血の入院時重症度が高かった ($p<0.05$)。不成功転帰 (修正 Rankin Scale スコア = 3~6) は年齢、脳卒中既往、出血範囲、入院時の重症度と関連があった (カイ 2 乗 (9) 値 = 830.4、 $p<0.0001$)。死亡は出血範囲、脳室内出血、入院時重症度、外科治療と関連していた (カイ 2 乗 (7) 値 = 540.4、 $p<0.0001$)	
結論： 脳内出血の入院時重症度および退院時転帰に影響を及ぼす 4 つの因子を同定した。興味深いことに、軽度飲酒者に比べて非飲酒者や大量飲酒者で脳内出血の重症度が高い傾向が認められた。さらに、外科的治療は脳内出血による死亡を減少させた。	